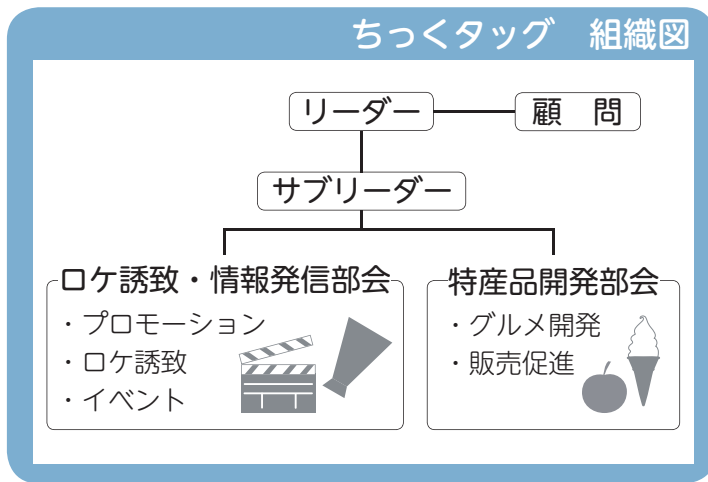


筑西市活性化プロジェクト

筑西市では少子化や地域内雇用の減少などによる人口減少への危機感から、平成22年度に総務省の「地域力創造アドバイザー事業」に応募し採択（全国13市町村）を受けました。

アドバイザーの（株）地域活性プランニング代表取締役・藤崎慎一^{ふじさき しんいち}先生の指導のもと、地域資源の発掘や組織づくりなどを学んだ市民メンバー。今年度はチーム名を「筑西市活性化プロジェクト“ちっくタッグ”」とし、実践的な活動を展開していきます。

ちっく タッグ



「ちっくタッグ」とは？

チーム名は、「筑西市民が手を取り合い、タッグを組んでまちづくりに寄与していこう」という思いを込め、時を刻む音「チクタク」と意味を掛け合わせて、メンバー全員で考え決定しました。

「自ら考え、自ら行動し、自ら責任を取る」という信念のもと、様々な活動を通して全国に元気な筑西市を発信し、交流人口の増加、ひいては定住人口の増加を最終目的に活動します。

今年度の活動

ロケ誘致・情報発信部会

（株）地域活性プランニングスタッフの指導のもと、ロケ誘致・ロケの受入目的や準備事項・地域住民との協体制の構築・制作会社との交渉・著作権に関することなどの学習を行い、（※）ロケ誘致のノウハウを習得します。

※ロケとは：映画・テレビなどで外へ出て自然の景色や街並みを背景に撮影すること。

市観光課内に「筑西ロケーションサービス（仮称）」を設置（7月1日）し、筑西市のさまざまな地域資源を積極的に活用してロケ誘致を進めます。

筑波山を望む豊かな自然環境をはじめ、田園風景、祭りや伝統文化、多くの歴史的資源、豊かな農産物等、筑西市特有の地域資源を活かすため、様々な広報媒体を活用しながら、全国に向けて戦略的な情報発信を展開します。

今年度の活動

特産品開発部会

特産品開発の専門家の指導のもと、

筑西市が誇る農産物等の資源を活用して、新たな特産品を開発します。

12月に市内で開催される「小栗判官祭り」と、来年2月にビックサイト（東京都）で開催される「ギフトショー」への出展を目標に、特産品開発を進めます。

来年2月のギフトショーを前に、市内で「シンポジウム」の開催を予定しており、特産品のお披露目と各部会からの発表を計画しています。

市内にあるロケに適した場所を考えるメンバー。多くの場所があがり、議論は止まりません。



ワークショップの発表の様子。藤崎先生の指導にも力が入ります。



ちっくタッグの活動にご協力ください！

ちっくタッグの活動には、市民のみなさんのご理解・ご協力が不可欠です。活動を市全体で盛り上げるためにも、メンバーの筑西市に抱く思い、活動に対する情熱をご紹介します。



● リーダー

白井 佐智子 さん

しらい さちこ

前進あるのみ！

ちっくタッグ一致団結、頑張ります！

昨年から半年、自分たちのまち「筑西市」について、こんなに考えたことはなかったと思います。正直はじめは「騙されてるのか？」と疑いつつ始まった会でした。

でも、会を重ねる毎に「疑い」が「期待」に変わり、今は「期待」が「責任」に変わりつつあります。メンバーの自由な発想と行動力の結集で、筑西市に元気を注入できればと思います。豊富な資源が財産の筑西市。活性の手法は無限です。まず何から始めるか？楽しみに見ていてください。

市民全員でタッグを組んで、わがふるさと「筑西」の発展を目指しましょう！

● サブリーダー

大畑 芳道 さん

おおはた よしみち



筑西市では、現在でも個人・団体を問わず、多くの市民の皆様が地域のためにまちづくり運動を展開しています。しかし、「…がやってるなら関係ないや」と、市民が興味を持たずに終わってしまっているケースが少なくありません。

わたしたちは、市民一人ひとりが考え・行動し・地域活性化のためにタッグを組んで協力し合えるよう、活動していきます。ご協力をお願いします。



● ロケ誘致・情報発信部会長

国府田 直樹 さん

こうだ なおき

もてなしの心で、魅力あるまちへ。

ワークショップを重ねる毎に、まちづくりの考え方を「依存」から「自立」へと変えること、そしてなにより「自分たちのまちを、自分たちで何とかしていこう」という熱意が最も大切だと感じています。

今年度ははいよいよ現実的な組織体制になりました。市民・団体・行政が垣根を越え取り組むこのプロジェクトは、筑西市がさらに魅力あるまちへと変わる大きなチャンスです。

筑西市を訪れた方々に「思い出深いまちになった」と言われるよう、手段・手法にとらわれず取り組み成果につなげていきたいと思っています。

● 特産品開発部会長

勝田 謙一 さん

かつた けんいち

筑西を「日本一行ってみたいまち」に。



昨年度のワークショップでは、市の現状に危機感を持ち、何とかしたいと思う様々な分野の市民がたくさんいることに驚いたと同時に、そのような方々と交流が持てた事から非常に刺激を受けました。

ワークショップでは、メンバーが自ら考え、率直な意見を述べ合うことで意識を共有化できました。

今年度は新メンバーも加わり、具体的な行動による成果につながる活動が求められます。筑西市を「茨城一」「北関東一」「日本一」の行ってみたいまちにするための特産品を開発し、市民だけでなく、全国にも発信し続けていきたいと思っています。

問い合わせ 企画部企画グループ 内線480、490